Report on Acceptance of the Bunraku Play, "Aonesaki-Shinju" : In the Case of People from Latin Countries living in the United States of America

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/35770

人間社会環境研究　第26号　2013. 9

文楽『曽根崎心中』の受容に関する一報告
－米国居住ラテン諸国の人々の場合－

人間社会環境研究科　客員研究員
笠　井　津加佐

金沢大学　非常勤講師
雄谷ソニア啓子

要旨

本稿は，本学大学院紀要『人間社会環境研究』24号に掲載した調査を継続したものである。前回は，日本とドミニカ共和国内で，文楽『曽根崎心中』を例として，DVDでの作品鑑賞ののち，作品が描く世界とは異なった，明るいラテン諸国といったイメージの国，ドミニカ共和国でどのように受容されるのか，その受容様態の確認と分析，そして考察することが目的であった。

その結果，受容に関しては，言葉と文化のちがいが重要な観点であることが分かった。そのため，今回の調査に際しては，前回の分析項目に加えて，「言葉の違い」と「文化の違い」に関しても，感想報告を整理し分析することとした。

今回，米国内に居住するラテン系居住者について調査を行った。調査参加者は８名，男女比は１対７で，平均年齢は59.83歳であった。調査手順など，前回の調査に准じて行った。鑑賞はDVDを再生して行うこと，作品鑑賞の前にスペイン語に翻訳された梗概を読むこと，感想報告はA4 １枚程度の分量で，感想を纏めずに想起するままに書いて貰うことなどが，調査のポイントであった。

調査で得た感想報告は，日本国内，ドミニカ共和国内での調査に，米国内の調査を加えて表の作成を行ったが，今回は肯定でも否定でもない「どちらでもない」という項目を新たに設けた。文楽の構成要素別の分析も行い，その後，前回同様にKJ法を使って分類を行った。また，今回新たに加えた「言葉の違い」と「文化の違い」に関して，報告書から該当部分を抜き出し，整理を行った。

その結果，前回同様，「人形」や「衣装」など視覚的なものに，肯定的な受容が偏りがちであった。それは，外国語の音声によって理解しなければ鑑賞できないという不利な点があるので当然の結果と考えられる。ところが，今回は，「作品内容」に関する肯定的な受容が「演出」に関するものと僅差で確認できた。感想報告者は，「粗筋」がなかったら作品の意味や，演技の意味などが理解できなかったこと，できれば「字幕（スペイン語）」があればもっとよかったと報告していた。文末に，字幕がなくても「興味が薄れることはなかった」と付け加えてもあり，作品をより深く理解したいという報告者の気持ちと，そのための補助が必要であることが，改めて明らかになった。音楽に関しても，三味線の音が持つ意味や，大夫の発声について説明を加えたり，心中決意の場の趣向としての楽しみ方を紹介することも，有効な説明であると思われた。

Report on Acceptance of the Bunraku Play, "Sonezaki-Shinjū" : In the Case of People from Latin Countries living in the United States of America

KASAI Tsukasa, OYA Sonia Keiko

Abstract

This paper is a continuation of research conducted in the Dominican Republic and in Japan published in the 24th Journal of Human and Socio-Environment Studies.

Concerning the acceptance of Japanese traditional culture, we have found important differences in language and cultural aspects. Therefore, we have included the comments we have received and an analysis of language and cultural differences, in addition to other aspects that were taken into account in the previous research.

Like with previous research, a majority of the participants expressed a positive acceptance of visual elements, such as marionettes and costumes. This result was expected since other aspects were impossible to evaluate without a proper understanding of the Japanese language. In this study, however, a group of participants showed interest in the production and plot of the play. Some participants suggested the use of Spanish subtitles; without that and the plot summary, it would have been impossible to understand the meaning of the play or the characters' performance. Once again, we confirmed the participants' desire to better understand the play and, therefore, the need for help in doing so. We believe that it would be more effective to provide a detailed explanation of the meaning of the sounds of the shamisen, the voice of the Tayu, and the scene when the two lovers agree to commit shinju (love suicide).

序

本研究は，本研究科紀要第24号に掲載したドミニカ共和国での調査・研究[1]を，より深める目的で行ったものである。文楽『曽根崎心中』を事例とし，ドミニカ共和国で文化受容の調査を行ったのは，「心中」という言葉で総括される男女の恋物語が，イメージ的に全く異なった明るい世界に生まれ成長した人々にどのように理解され，鑑賞されるのか，その受容様態について分析し考察を試みたいと考えたからであった。筆者らは，全く異なる世界での分析から見えてくる問題点が，国内での受容に複眼的な視点を齎すのではないかと考えるものである。

ドミニカ共和国を調査対象国としたのは，前稿でも述べたが，ブラジル・メキシコ文楽興行[2]が反響を呼んだことと，日本とのつながりがある国を選択したいと考えたからであった。さらに，できるだけ初めて文楽に触れる人たちの感想報告を得たかったため，公式な興行が行われていない国であることも条件の一つであった。

前稿を発表した後，なぜドミニカ共和国で調査を行ったのかと言う意見をいただいた。筆者らは当初，ドミニカ共和国での調査は，「太陽のもと，明るい国，ラテン諸国での受容の一例」という位置付けをしていたが，調査協力者の方々のお蔭で深い感想報告を得られ，事例作品が持つ受容の多面性が見えてきた。今回は，その多面性が，ドミニカ共和国と言う一つの国に限定されることなのか，「太陽のもと，明るい国，ラテン諸国」の人々全体に言えることであるのかを問う調査を行った。

ただ，今回の調査には，その結果に様々な問題を残す部分があることを断らなければならない。まず前回同様，調査参加者の数が多くないので，用例として示す数字の説得性には問題がある。しかし，こういった調査は，映像を見る時間や感想報告を書くことの負担，これは，時間を取られるといった問題だけではなく，調査参加者のさまざまな心理的負担も大きいため，参加していただくこと自体大変貴重な面がある。さらに大学など限定された世界での調査ではなく，可能な範囲で一般の方の調査を行なった方が，作品の受容を考えるときには有効である点などを考慮に入れて調査参加者を求めたので，より困難な状況が生じた。そういった事情を踏まえての，調査参加者数であることをお断りする。

さらに今回は，米国内でドミニカ共和国民に限定せずに，ラテン諸国の人々という限定で調査参加者を求めた。米国においては，公式の文楽公演も何度か行われている[3]だけでなく，日本紹介の機会もドミニカ共和国の状況とは異なる。しかしながら，米国と言う国の広さは，文楽公演開催地とその他の地域の距離を生じさせ，却って鑑賞の機会が得にくくなる場合があるなど，前回のドミニカ共和国に準じた，比較検討に前向きな条件も考えられる。一方，国土の広さ[4]や歴史的・地理的背景などのゆえに，さまざまなラテン系諸国出身の人々の感想報告が混在することも予測される。

このような問題が生じることなど種々危惧される点はあるが，日本ともドミニカ共和国とも関係が深く，人や文化の出入が盛んな米国での調査は，有意味であると思われる。

1．調査

1.1 調査目的

前回の調査から得られた大きな成果は，話の内容を伝達する言葉について，母語話者である日本人も浄瑠璃で聴きとることが難しくなってきている現状と，言葉自体が分からないドミニカの人々の受容状況とは，「理解できない」ということ自体では似ていることであった。さらに，聞き取りやすい浄瑠璃の会話部分では，日本国内の受容者は作品内容を楽しんでいた。同様にドミニカの人々も，人形の演技が理解を助けたところもあり，また事前に提示した梗概から作品内容を理解していたこともあってか，内容についての深い鑑賞報告が見られた。このような受容が見られることは，ことばの持つ音声と意味の側面が，それぞれ否定的受容と肯定的受容の要因となっていることを推測させる。同様に，床下の徳兵衛とお初の心中決意の場面においては，日本国内においても若い世代では床下のイメージが変化[5]しており，作品受容もその影響が見られた。また，人形使いが鑑賞の妨げになる[6]など，文化が要因と考えられる受容の差異も見られた。

これら前回の調査結果から，今回の分析観点に作品受容に現れる言語と文化に関する点を加えることとした。この観点を加えることで，否定的受容につながる部分を抽出できよう。さらにそれを梗概や鑑賞以前の説明などで補えば，文楽を受容し易く，また，楽しみやすくすることが可能になるとは考えられないだろうか[7]。

今回，米国内での調査でも，前回の調査結果同様，言語と文化が干渉する点が明らかになり、文楽受容の問題点を浮かび上がらせてくれるという仮説に基づいて調査を行う。そして，ここで明らかになった問題点は，上述したように受容者も含めて上演環境が著しく変化した時代に，何百年も受け継がれてきた芸能が生き続ける条件の一つを明らかにするのではないかという仮説も，併せて持ちたいと考えて調査を実施した。

1.2 調査方法

調査参加者：今回の調査参加者は，日本の伝統文化に触れた経験が乏しい，もしくはない米国在住のラテン系諸国出身者８名（平均年齢59.38，標準偏差10.73，男女比１対７）であった。

調査手続き：先の日本国内，ドミニカ共和国内での調査に准じて行った。まず，調査参加者は，作

品の梗概を読むよう教示された。梗概は，文楽『曽根崎心中』全体に関して記述されている。さらに，調査手続きについて教示された。調査参加者は，梗概[8]を読み終えたのち，借り受けた文楽『曽根崎心中』のDVDを各自のコンピュータで再生し，天満屋の段を鑑賞した。その後，作品の面白かったところと面白くなかったところについて，それぞれの場所と理由について，A4 1枚程度の分量を目安に，パソコンに入力し，雄谷へ送信するよう求められた。調査に先立った教示は以下の通りであった。

「Los pasos a seguir son los siguientes:
Primero, lea el resumen de la obra.
Segundo, vea la obra. Puede verificar el resumen de la obra mientras lo está viendo así como también puede ir tomando notas.
Tercero, después de ver la obra escriba en el ordenador sus comentarios sobre la parte que encontró interesante, cómica o divertida, así como sobre la parte que encontró aburrida o insípida. Escriba qué parte, de qué manera y por qué lo encontró interesante, cómico o divertido. Proceda hacer lo mismo con la parte aburrida o insípida. Escriba libremente de manera espontánea por 5 minutos.」[9]

使用映像：前回同様に，文楽『曽根崎心中』録画テープ（2000年3月5日放送pm3：00～4：45，NHK教育TV）を，NPO法人人形浄瑠璃文楽座より著作権の許可を，NHKより著作隣接権者の許可を得て使用した。調査には，「天満屋の段」部分をディジタル化したもの（mpg2形式720×480ドット）を使用した。

2．調査結果

分析は，前回同様，調査参加者らが報告した感想が，直截に現れる「形容詞的述語部分」に着目して行った。調査報告は，雄谷が翻訳し，笠井が分析し，纏めた。

分類も，前回同様「形容詞的述語部分」で示された作品の評価に関する分類と，「形容詞的述語部分」が評価する対象，つまり，人形の動きか音楽かといった点に関して行った。前者の作品評価に関する分類は，肯定的な評価と否定的な評価に分類し，その評価の対象も文楽の構成要素を基本に言葉，動き，音の3項目をそれぞれ3項目に分け計9項目，さらに9項目にも重複して分類されるが，独自に分類する必要があると思われる，演出，視覚を対象として表現されているところ，作品構成，作品評価の4項目を加えた計13項目に分類した。その後，今回は評価対象それぞれが，どのような「形容詞的述語部分」で評価されているのかを確認した。

一つのスペイン語に一つの日本語が充当されて翻訳されている場合は，スペイン語を付記することで翻訳による分類の曖昧さを補ったが，複数のスペイン語が一つの日本語に訳されている場合は，スペイン語を複数付記し，それぞれが同じ日本語に充当する理由を検討した。ニュアンスの部分で異なると明らかに思われる場合は，同じ日本語が充当されていても異なるものとして扱うという考えで分類した。

2.1 調査参加者の作品受容の様態に関する分類

前回の調査結果に，今回の調査結果を付加して以下の表1を作成した。国内での調査結果を基準として，同じ，または類似する作品受容が確認された事例を，前回のドミニカ共和国，今回の米国の順で併記した。米国内の調査結果では，作品について「悲劇的だ」など，肯定でも否定でもない受容をしている場合が多かったので，「どちらでもない作品受容」の項目を増やした。一国内の肯定的，否定的受容の様態も確認する必要があったため，併記は同一の受容様態ごとに，A（肯定的作品受容），B（否定的作品受容），C（どちらでもない作品受容）と表記して行い，表に纏めた。前回，用例の表記は，翻訳語（文），該当するスペイン語の引用の順序で行ったが，今回は，表1が一目で確認できるように見開き2頁内に纏めたいと考え，ドミニカ共和国での調査結果のスペイン語

表１　３国間における肯定的作品受容ならびに否定的作品受容に見られた形容詞的述語部分

国内				ドミニカ共和国			
A（肯定的作品受容）	サンプル数	B（否定的作品受容）	サンプル数	A（肯定的作品受容）	サンプル数	B（否定的作品受容）	サンプル数
面白かった（視覚的）	1	よく分からなかった	7	面白い	8	おかしい（変だ）	1
よく分かった	3					よくない	2
滑稽だった	1			面白い（滑稽）	4	むずかしい	1
				おかしい（滑稽）	1	理解できない	1
緊張感があった	5					わからない	2
思いの強さを感じた	1	視覚的に刺激がない	1			単調だ	1
意識して聴いていた	1					退屈だ	6
印象に残った	1			印象的だ	3	つまらない	1
切迫感があった	1					奇妙だ	2
息遣いが感じられた	1					大変だ	2
今の世にもあると思った	2	バランスを崩した	1				
目を奪われた	1					あまり好きではない	4
共感した	3					気が散る	1
興味があった	2			興味深い	8	違和感を持つ（不快感）	5
				よい	2	戸惑う	1
				わるくない	1	感動が薄れてしまう	1
				美しい	2		
				きれいだ	4		
				好きだ	3		
				魅力的だ	2		
				感動的だ	3		
				天才的だ	1		
				効果的だ	1		
				芸術的だ	1		
				光栄だ	1		
				巨匠だ	2		
				完璧だ	3		
				驚くべきところだった	1		
				好奇心を持つ	1		
				注意を引く	2		
				よく表現されている	4		
				気に入る	1		
				目立つ	1		
				楽しんだ	3		
				一番成功している場面だ	1		

・表に記載した日本語の用例の時制は基本的に報告された時制のままである。
・形容詞的述語部分が，形容詞そのものである場合名詞を修飾する形で文中に現れる場合も用例として取り上げた。
・形容詞同様に動詞においても，名詞を修飾する場合も用例として取り上げた。

米国					
A（肯定的 作品受容）	サンプル数	B（否定的 作品受容）	サンプル数	C（どちらでもない 作品受容）	サンプル数
面白かったSer divertido ,Ser cómico	2	おかしかったSer cómico	1	悲しそうだSonar triste	1
分かりやすくなるHacerse fácil	1			悲劇的だSer dramático	3
		難しいResultar difícil	3	暗いEstar oscuro	1
		理解できなかったNo entender	1	物悲しくするHacer sonar triste	1
		わからないNo saber	3	悲しいSer triste	3
		単調だParecer monótono	2	少ないSer poco	1
		退屈だSer aburrido, Encontrar aburrido	4	一番感情が反映される	1
印象的だSer impresionante	2			La parte que más emoción refleja	
				この芸術の複雑さを示すSeñalar la complejidad de este	2
				arte	
				西洋文化圏のものでないNo ser parte de la cultura	1
				occidental	
		気が散るCausar distracción	1	経験がなかったNo tener experiencia	1
興味深いSer interesante	4			みたことがなかったNunca haber visto	2
よいEstar bien, Ser bueno	3	戸惑ったEstar un poco perdido	1	操作が難しそうだParecer difícil de manipular	1
				その理由や意味もわからなかっただろうNo hubiese sabido	1
美しいSer hermoso, Ser precioso	2	ゆっくりとしたSer lento	2	ni el significado ni el por qué	
綺麗だSer bonito,Estar bonito	2	長いSer largo	4	組織がなければ理解できなかったSi no hubiese sido porque	3
		堅苦しいSer serio	1	sabía de lo que se trataba,me hubiese sido imposible verla	
魅力的だParecer fascinante	2	悲しそうだSonar triste	1	字幕付きで見たかったMe hubiese gustado verla con	1
感動的だSer conmovedor,Impresionarse	2	少ないSer poco	2	subtítulos	
		目立つEstar muy visible	1	作品の起源や時代を調べたいMe motivó a hacer	1
		女性の方が良いHubiera sido mejor usar voz de mujer	1	investigación sobre su origen y época	
		暗いEstar oscuro	1	気の毒だDar pena	1
		簡単ではないNo ser fácil	1		
この芸術の巨匠だSer maestro	1	対決のように見えるAparentar confrontamiento	1		
完璧だNo faltar detalle	1	寝てしまうPar poco dormirse	1		
驚いたSorprenderse	1	笑ってしまったCausar risa	1		
		悪ふざけな金切声に似ていたParecer chillido	1		
注意を引くLevantar atención	1	微笑んでしまったHacer sonreir	1		
		途方もないことに思えるParecer insólito	1		
		遅いSer lento	1		
		面白みがないParecer insípido	1		
楽しむDisfrutar	1	同じものだMantenerse igual	2		
		変化が必要だNecesitar cambio	2		
素晴らしい Ser extraordinario	1	(声調が)似ていたSer parecido las tonalidades de las voces	1		
ユーモアを映し出すReflejar humor	1	理解するのが難しかったMe resultó difícil saber lo que	1		
手が込んでいるEstar elaborado	2	estaba pasando			
高い能力を持っているTener gran talento	1	注意を払わなければならなかったTuve que prestar mucha	1		
的確だSer preciso	1	atención			
厳密だSer exacto	1				
豊富な経験を持つTener mucha práctica	2				
詳しい専門家だSer experto	1				
様々な感情に満たされたUna obra llena de	1				
emociones de diferente tipo					
複雑だSer complejo	1				
繊細だSer sutil	1				
大変な才能を持っているTener mucho talento	1				
練習が必然的Conllevar práctica	1				
統率感があるTener coordinación	1				
能力に気付いたNotar talento	1				
よく演じられているEstar bien ejecutado	1				
賞賛に値するSer admirable	1				
好感を持ったSer gracioso	1				
優雅だParecer elegante	1				
勉強になったFue un aprendizaje	1				
興味が薄れることはなかったNo dejar de ser	1				
interesante					
洗練されているEstar exquisitamente hecho	1				
途方もない仕事をしたHizo un trabajo fabuloso	1				

・スペイン語表記が同じであっても,文脈によっては日本語では,二語,または三語に訳し分けた。

・表に記入したスペイン語は，serまたはestarに形容詞の原型を付加した形で表記したが，用例が文として取り上げられている場合，適宜，該当する報告文をそのまま引用した。

は省略した。前稿を参照いただきたい。

その結果，肯定的な受容としては，「興味深い」が４例で最も多かった。次いで「よい」が３例，「面白かった」，「印象的だ」，「美しい」，「綺麗だ」，「魅力的だ」，「感動的だ」，「手が込んでいる」，「豊富な経験を持つ」の用例が２例ずつ確認された。そのほかの用例は１例ずつであった。１例ずつの用例について詳細は，表１を参照頂きたい。続いて否定的な受容として確認された用例は，「退屈だ」と「長い」が４例で最も多かった。続いて，「難しい」，「わからない」が３例みられた。「単調だ」，「ゆっくりとした」，「少ない」，「同じものだ」，「変化が必要だ」が２例ずつであった。そのほかの用例は１例ずつであった。

先ほども述べたが，前回の調査にはなかった「どちらでもない作品受容」の項目には，「悲劇的だ」，「粗筋がなければ理解できなかった」，「悲しい」が３例ずつで最も多かった。続いて「みたことがなかった」，「この芸術の複雑さを示す」が２例ずつ見られた。そのほかの用例は，１例ずつであった。

2.2 作品の構成要素別分析

表２は，調査参加者の感想報告から，文楽の構成要素を基本として分類した報告数を比較したものである。今回調査を行った米国内での結果と，前回調査を行った日本国内およびドミニカ共和国内での結果も比較できるよう，３者を上下に並べて表示した。

もっとも多かったのが，「作品評価」に関するもので31例あった。この結果は，ドミニカ共和国と同じであるが，用例数は22例を大きく上回っていた。続いて「演出」に関するものが多く16例であった。これは，日本国内での調査では，最も多く用例が見られ26例であったが，ドミニカ共和国内での調査では，米国内同様に２番目に多い用例数となっている。さらに，16例という報告数も同じであるが，ドミニカ共和国内では，「浄瑠璃」，「演技」に関するものも同数の高い用例数であった。続いて米国内では，「演技」に関する用例が14例で３番目に多い用例数であったが，日本国内で３番目には「言葉」のうち「内容」に関するものが15例となっており，ドミニカ共和国内での調査では，「動き」のうち「その他」に関するものが15例となっている。用例が多いものに関する顕著なものは以上の通りであるが，逆に用例が見られない，または，極めて少ないもの（１例か２例）は，「動き」の「舞踊的表現」であり１例であった。続いて「音」のうち「三味線」と「その他」，「作品構成」に関するものが，それぞれ２例ずつであった。それに対し，日本国内では「動き」のうち「舞踊的表現」と「その他」に関するものの用例がなかった。ドミニカ共和国内では，「言葉」のうち，「語」，「表現」に関するもの，「音」のうち「その他」に関する用例がなかった。その他の調査結果は，表２のとおりであった。

2.3 形容詞的述語部分のグループ化

前回同様に，調査参加者の報告に基づき，形容詞的述語部分をKJ法によってグループ化した。前回の表を基にして表３を作成したが，調査国の分布が分かるように形容詞的述語部分末尾の

表２　文楽の構成要素を基本とした分類別報告数の比較

												（米国内）	
作品構		言葉			動き			音		演出	視覚	作品	作品
成要素	内容	語	表現	演技	舞踊的表現	その他	浄瑠璃	三味線	その他			構成	評価
用例数	8	3	3	14	1	13	8	2	2	16	10	2	31
												（日本国内）	
用例数	15	7	6	19	0	0	6	3	5	26	9	10	8
											（ドミニカ共和国内）		
用例数	8	0	0	16	5	15	16	14	0	16	12	4	22

[　　]内に，米国は「米」，日本国内は「日」，ドミニカ共和国は「ド」と付記した。また，前稿同様に形容詞的述語部分による作品受容の内容を，付録1として文末に掲載した。付録1には，報告者の国が確認できるように，日本の人々は「S1J」，ドミニカ共和国の人々は「S1」，米国内のラテン系の人々は「S1U」と表記した。

前稿では，「肯定的作品受容」と「否定的作品受容」の2群に分類してラベル付けをしたが，今回は感想報告の分類過程で，作品そのものについて報告していると思われるものや，鑑賞のための要望について書いていると思われる報告がかなり確認できた。作品の受容に大きく影響するものであると考え，「その他」として掲載した。そのため，今回は3群に分類してラベル付けを行った。

本稿では，KJ法により20のグループが抽出され，それぞれラベル付けされた（表3参照）。そのうち「滑稽」「完璧」「印象的」「緊張感」「感動的」「魅力的」「共感」「好き」「面白い」「予備知識」の10個は，肯定的な作品受容に関するものであり，「違和感」「退屈」「面白くない」「変化がない」「難しい」の5個は，否定的な作品受容に関するものであった。さらに，「悲劇」「未知」「字幕」「学習意欲」「作品分析」の5個は，その他の作品受容に

表3　KJ法による形容詞的述語部分の分類

	ラベル	形容詞的述語部分の項目		
肯定的作品受容	滑稽	・滑稽だった〔日〕	・面白い，おかしい（滑稽）〔ド〕	混在〔日、ド〕
	完璧	・光栄だ〔ド〕 ・驚くべきところだった〔ド〕 ・完璧だ〔ド、米〕 ・途方もない仕事をした〔米〕 ・練習が必然的〔米〕 ・連帯感がある〔米〕 ・的確だ〔米〕 ・よく演じられている〔米〕 ・驚いた〔米〕 ・詳しい専門家だ〔米〕	・天才的だ〔ド〕 ・巨匠だ〔ド、米〕 ・よく表現されている〔ド〕 ・大変な才能を持っている〔米〕 ・厳密だ〔米〕 ・賞賛に値する〔米〕 ・能力に気付いた〔米〕 ・豊富な経験を持つ〔米〕 ・高い能力を持っている〔米〕	混在〔米、ド〕
	印象的	・目立つ〔ド〕 ・印象に残った〔日〕	・印象的だ〔ド、米〕 ・効果的だ〔ド〕	混在〔3国〕
	緊張感	・息遣いが感じられた〔日〕 ・緊張感があった〔日〕	・切迫感があった〔日〕	〔日〕
	感動的	・感動的だ〔ド、米〕	・思いの強さを感じた〔日〕	混在〔3国〕
	魅力的	・きれいだ〔ド、米〕 ・美しい〔ド、米〕 ・注意を引く〔ド、米〕 ・芸術的だ〔ド〕 ・複雑だ〔米〕 ・繊細だ〔米〕 ・様々な感情に満たされていた〔米〕 ・手が込んでいる〔米〕	・魅力的だ〔ド、米〕 ・面白かった（視覚的）〔日〕 ・目を奪われた〔日〕 ・一番成功している場面だ〔ド〕 ・ユーモアを映し出す〔米〕 ・優雅だ〔米〕 ・洗練されている〔米〕 ・素晴らしい〔米〕	混在〔3国〕
	共感	・今の世にもあると思った〔日〕 ・よくわかった〔日〕	・共感した〔日〕 ・分かりやすくなる〔米〕	混在〔3国〕
	好き	・好きだ〔ド〕 ・好感を持った〔米〕	・気に入る〔ド〕	混在〔ド、米〕

	面白い	・良い〔ド、米〕 ・楽しんだ〔ド、米〕 ・好奇心を持つ〔ド〕 ・悪くない〔ド〕 ・興味が薄れることはなかった〔米〕	・面白い〔ド、米〕 ・興味があった〔日〕 ・興味深い〔ド、米〕 ・勉強になった〔米〕	混在〔3国〕
	予備知識	・意識して聴いていた〔日〕		〔日〕
否定的作品受容	違和感	・気が散る〔ド、米〕 ・奇妙だ〔ド〕 ・微笑んでしまった〔米〕 ・目立つ〔米〕 ・途方もないことに思える〔米〕 ・笑ってしまった〔米〕	・おかしい（変だ）〔ド、米〕 ・違和感を持つ（不快感）〔日〕 ・悪ふざけな金切り声に似ていた〔米〕 ・対決のように見える〔米〕 ・女性の方が良い〔米〕	混在〔3国〕
	退屈	・視覚的に刺激がない〔日〕 ・単調だ〔ド、米〕	・退屈だ〔ド、米〕 ・寝てしまう〔米〕	混在〔日、米〕
	面白くない	・よくない（「いけない」を含む）〔ド〕 ・大変だ〔ド〕 ・あまり好きではない（「あまり好みではない」を含む）〔ド〕 ・堅苦しい〔米〕 ・面白みがない〔米〕	・つまらない〔ド〕 ・感動が薄れてしまう〔ド〕 ・暗い〔米〕 ・（声調が）似ていた〔米〕	混在〔ド、米〕
	変化がない	・ゆっくりとした〔米〕 ・長い〔米〕 ・変化が必要だ〔米〕	・少ない〔米〕 ・同じものだ〔米〕 ・遅い〔米〕	〔米〕
	難しい	・難しい〔ド、米〕 ・戸惑う〔ド、米〕 ・よくわからなかった〔日〕 ・注意を払わなければならなかった〔米〕	・理解できない〔ド、米〕 ・わからない〔ド、米〕 ・簡単ではない〔米〕 ・理解するのが難しかった〔米〕	混在〔3国〕
その他	悲劇	・悲しそうだ〔米〕 ・物悲しくする〔米〕 ・悲しい〔米〕	・悲劇的だ〔米〕 ・暗い〔米〕 ・気の毒だ〔米〕	〔米〕
	未知	・西洋文化圏のものでない〔米〕 ・観たことがなかった〔米〕	・経験がなかった〔米〕	〔米〕
	字幕	・その理由も意味もわからなかっただろう〔米〕 ・字幕付きで観たかった〔米〕	・粗筋がなければ理解できなかった〔米〕	〔米〕
	学習意欲	・作品の起源や時代を調べたい〔米〕		〔米〕
	作品分析	・一番感情が反映される〔米〕 ・操作が難しそうだ〔米〕	・この芸術の複雑さを示す〔米〕 ・少ない〔米〕	〔米〕

関するものであった。

さらに，肯定的，否定的またはその他の受容をしているそれぞれの場合，形容詞的述語部分が記述している内容について，調査を行った3国間で比較するために，前稿で確認した「人形」「演出」「舞台」「浄瑠璃」「三味線」「効果音」「作品内容」「言葉」の8項目を基に表4を作成した。

その結果，調査参加者が最も多く報告した項目は，肯定的な受容では「人形」に関するものであり，73例あった。報告数の内訳は，2例対38例対33例で，ドミニカ共和国内での調査に次いで多かった。次に報告数が多い項目は，「演出」で，3

番目が「作品内容」に関するものであった。これら２項目に関する報告数の内訳は,「演出」については「人形」の場合よりも報告数は近似した数であるが，多い順番は同じであった。３番目の「作品内容」に関しては，順番は日本国内と米国内の報告数が近似しており，１例の差で日本国内の方が多かった。「浄瑠璃」に関する報告数は，前回と変わらず２例，ドミニカ共和国で見られただけであった。

続いて，否定的な受容に関しては,「演出」に関する報告が17例で１番多かったが,「浄瑠璃」と「人形」に関するものが，それぞれ16例，15例で近似した数字であった。最も多かった「演出」の項目では，前回は，日本国内の報告数が４例でドミニカ共和国の１例には上回っていたが，今回，米国内で12例確認できた。これは，前回の調査では,「浄瑠璃」が最も多く、「人形」が２例の差で続いていたが，今回は３項目だけでなく,「三味線」が12例,「作品内容」が８例の報告が見られた。また，前回は，報告のなかった「舞台」に関するものが２例確認され,「効果音」に関する１例とともに報告数の少ない項目であった。

今回，初めて分類した「その他」の受容に関する報告は,「作品内容」が10例見られた以外は,「効果音」では全く報告がなく，そのほかの項目も１例から３例みられたにすぎなかった。報告数の詳細は，表４を参照いただきたい。

2.4 作品受容を難しくしているものに関する分析結果

調査目的でも述べたが，前回の調査を踏まえて，受容を難しくしている要因であると考えられる「言葉」と「文化」に関する報告について，まず該当部分を書き出して分類を行った。その上で，受容が困難でも，作品や演技，演出などを理解している場合と理解していない場合，換言すると,「言葉」や「文化」が，作品受容に先立って，文楽『曽根崎心中』に関することの理解を妨げている場合といない場合に分類し，感想報告から該当する部分を例示した。分類に際し，両方に記載した場合がある。床下の徳兵衛とお初が，お初の足を使って心中を決意する場面を例にとると，互いの愛情表現という受容の仕方は文化の違いが干渉しないが，足を使って心中を決意するという趣向は，文化の違いから理解されていないと判断したため，両方に記載した。

2.4.1 言葉について

まず，言葉の違いが理解を妨げている場合に関連する問題は,「演技」に分類されるもので２例見られた。九平次が天満屋へやってきたとき“お茶がだされた場面（以下「呈茶の場面」と称す)”で１例,「人物の認知」に関するもので１例あった。「人物の認知」に関するものは，一人の大夫による語り分けで人物を演じる習慣を文化の一部と考えて,「演技」に分類した。

表４　肯定的，否定的，またはその他の受容報告について，その内容ごとの報告数と３国間の内訳（日本：ドミニカ共和国：米国）

肯定的受容		否定的受容		その他	
報告内容	報告数	報告内容	報告数	報告内容	報告数
人形	73（2：38：33）	人形	15（0：8：7）	人形	2（0：0：2）
演出	24（6：11：7）	演出	17（4：1：12）	演出	3（0：0：3）
舞台	5（0：5：0）	舞台	2（0：0：2）	舞台	1（0：0：1）
浄瑠璃	2（0：2：0）	浄瑠璃	16（4：6：6）	浄瑠璃	2（0：0：2）
三味線	6（1：5：0）	三味線	12（0：6：6）	三味線	1（0：0：1）
効果音	4（4：0：0）	効果音	1（1：0：0）	効果音	0（0：0：0）
作品内容	21（9：4：8）	作品内容	8（0：1：7）	作品内容	10（0：0：10）
言葉	8（5：1：2）	言葉	4（0：2：2）	言葉	3（0：0：3）

表5　受容者が作品鑑賞をする場合，言葉の違いに関連する問題

言葉の違いが理解を妨げている部分		言葉の違いが理解を妨げない部分	
演技・茶	・「どうしてお茶がだされたのか分からない」		
演技・人物の認知	・「どのキャラクターも似たような声調であるため、		
	言葉がわからないだけに誰が話しているのかを知る		
	のがとても難しかった」		
演出・床下の場面	・「愛人を着物の下に隠し」（芝居の趣向）	演出・床下の場面	・「愛人を着物の下に隠し、社会的圧力や家父長的な
	梗概による理解		社会における女性の限界にもかかわらず彼を処刑
	・「とてもサスペンスと恐れの場面であったにもかか		と追放から救うため危険をおかす」
	わらず、微笑んでしまった。お初の衣装はあま		
	りにも布がたくさんあり、あまりにも広く、彼女の着物の下に		
	は一人以上の人が入り得るからだ。またこのシーン		
	で私はお初の足はにおわないこと、そして徳兵衛が		
	彼女の足を触っても彼女はくすぐったくなかったこと		
	など思った」		
		内容・米衆と初の会話	・「想像するところ彼女たちは女性同士内輪の会話で
			日々の出来事を自由に表現している。反対にお初は
			一人離れその出来事について心配している」
		内容・金を貸すこと	・「お金を返してくれるという保証もなく、お金を友達に
			貸す徳兵衛はうぶだった。（略）付き合いの長い友達
			だと思ったこともうぶだった。実際には、一番の敵だ
			ったのだ。残念なことに外見はあてにならないこと
			が多い」
			・「食欲と真実の愛に基づいている」
内容・結末	・「途方もない出来事に見える。なぜ二人で逃げて	内容・結末	・「あまりにも悲劇的でかわいそうだった。また徳兵衛
	遠くに行かないのか。なぜ姿を消さないのか。なぜ		とお初が死以外の選択を持ち二人の残りの人生を
	傷つけあうのか。なぜ他の解決手段がないのか」		幸せにいきることができていたらと思った」
			・「とても悲劇的で哀しい作品だ」
			・「途方もない出来事に見える。なぜ二人で逃げて
			遠くに行かないのか。なぜ姿を消さないのか。なぜ
			傷つけあうのか。なぜ他の解決手段がないのか」
内容・物語の認知	・「ショーの間、時々何が起きているのかを理解するの		
	が難しくとても注意をはらわなければいけなかった。		
	言語が分からないからである」		
	・「あまり何が起きていたのかわからなかったが言語の		
	せいである」		
	・「起きていることの意味をとらえるのは簡単ではな		
	い」		
	・「私の日本文化の知識が足りないため、正確に何		
	が起きているのかを解釈するのが難しい」		
そのほか・字幕希望	・「字幕付きで観たかった。もしかしたらより親しみを感		
	じ、退屈で長いとはあま り思わなかったかもしれない。		
	もっとも興味がうすれることはなかったが」		
そのほか・梗概	・「粗筋を読まずに観はじめたからである」		
	・「このような日本の作品は一度も観たことがなかった。		
	粗筋を読んだ後も何を期待すればよいのか分から		
	なかった」		
	・ナレーションがわからないので、もし粗筋を読んでい		
	なかったらどうしてこのようなコンタクトがあったのか		
	その理由や意味もわからなかっただろう。また、お初		
	が幣に似たようなものでランプを揺さぶる場面も理解		
	できなかった」		
	・「もしこの作品が何のテーマを取り上げているのかを		
	知らなかったら理解できなかっただろうし、この作品		
	を観るのは不可能だったかもしれない」		
	・「全般的に、もし粗筋を送ってもらっていなかったらこ		
	の作品はあまり理解できなかっただろう」		

「演出」に分類したものが２例あった。共に“九平次の悪口に憤る天満屋の床下に隠れている徳兵衛を，足を使って宥め，徳兵衛への思いを九平次へ吐露し心中を決意し合う場面（以下「床下の場面」と称す）”であったが，“天満屋を訪れた徳兵衛を着物に隠す（以下「着物で男を隠す場面」と称す）”場面を中心に感想を述べているものが１例，「床下の場面」全体に関するものが１例あった。

「内容」に分類したものが２例あった。そのうち，「物語の結末」に関するものが１例，「物語の内容を認知すること」に関するものが４例あった。

最後に，「その他」に分類したものが２例あった。そのうち，「字幕希望」に関するものが１例あった。また，「梗概」に関するものが５例あった。

次に，逆に理解を妨げていない場合に関連する問題は，「演出」に関し，「着物で男を隠す場面」に関するものが１例あった。

「内容」に分類したものが３例あった。そのうち，「米衆と初の会話」に関するものが１例，「九平次にかけられた冤罪」に関するものが２例あった。さらに，「物語の結末」に関するものが３例あった。

2.4.2 文化について

次に「文化の違い」が理解を妨げている場合に関連する問題は，「演技」に関するものが７例，「演出」に関するものが２例，「表現」に関するものが１例あった。二人が互いへの愛情を窺わせる演技として，「床下の場面」で５例見られた。同じく，九平次が天満屋へやってきたとき，「呈茶の場面」で１例見られた。“天満屋から抜け出すとき，お初が箒で明りを消そうとする場面（以下「逃亡の場面」と称す）”で，１例見られた。また“天満屋から抜け出した二人が，嬉しさのあまり抱擁する場面（以下「抱擁の場面」と称す）”で１例見られた。

表６　受容者が作品鑑賞をする場合，文化の違いに関連する問題

障害が理解を妨げている部分			障害が理解を妨げない部分				
			演技・徳兵衛の感情	・「この演劇に使われる伝達手段は興味深い。徳兵衛が感じる恥、苦悩、			
				侮辱、恥辱を受人の前で帽子を使い顔を隠すと表現するところだ」			
演技・徳兵衛のお初への愛情	・「徳兵衛もまた彼女への愛情と感謝を足に接吻するしぐさと足元		演技・徳兵衛のお初への愛情	・「徳兵衛もまた彼女への愛情と感謝を足に接吻するしぐさと足元			
	で涙すると表現しこの伝達手段で彼らの絶対的な献身と無条			で涙すると表現しこの伝達手段で彼らの絶対的な献身と無条			
	件な愛を伝えている」			件な愛を伝えている」			
演技・お初の徳兵衛への愛情	・「お初の徳兵衛に対する深い愛情は、愛人を着物の下に隠し、		演技・お初の徳兵衛への愛情	・「お初の徳兵衛に対する深い愛情は、愛人を着物の下に隠し、			
	社会的圧力や家父長的な社会における女性の限界にも関わらず			社会的圧力や家父長的な社会における女性の限界にも関わらず			
	彼を処刑と追放から救うため危険をおかす」			彼を処刑と追放から救うため危険をおかす」			
演技・呈茶	・「どうしてお茶が出されたのかわからない」						
演技・徳兵衛とお初の抱擁	・「抱擁は対決のように見える」		演技・徳兵衛とお初の抱擁	・「抱擁は対決のように見える」			
演技・床下の場面	・「とてもサスペンスと恐れの間面であったにもかかわらず、		演技・床下の場面	・「お初が徳兵衛を自分の着物の下に隠しながら、姿を見せたとき			
	微笑んでしまった。お初の衣装はあまりにも布が汎山あり			彼をかばい心配し、そして手や足でお互いにコミュニケーション			
	あまりにも広く、彼女の着物の下には一人以上の人が入り得る			する場面にはとても好感をもった。ナレーションがわからないので			
	からだ」			もし粗筋を読んでいなかったら、どうしてこのようなコンタクトがあ			
	・「徳兵衛が彼女の足を触っても彼女はくすぐったくなかったことなど			ったのか、その理由や意味もわからなかっただろう」			
	思った」						
演技・足に触れるシーン	・「一番感情が反映されるのは、徳兵衛がお初の着物の下に隠れ、		演技・場面の面白さ	・「徳兵衛が家の中にしのびこむために愛人である芸者の着物の			
	少しでも近づければと愛する彼女の足に触れるシーンだ」			下に隠れるシーンそして二人が逃げ出すために芸者が団扇で			
演技・逃亡シーン	・「お初が箒に似たようなもので ランプを揺さぶる場面も理解できな			ランプを消そうとするシーンはおもしろかった」			
	かった」						
			内容・作品	・「少しゆっくりだが、大筋はとても気に入った。最後に主人公たちに			
				自殺してほしくなかった。とても悲しかった」			
			内容・作品	・「興味深い。今までに観てきたものとはまったく異なる」			
			内容・貪欲と真実の愛	・「この作品の物語は貪欲と真実の愛に基づいている」			
演出・舞台装置	・「ほとんど同じだった。もっと変化が必要だ」						
演出・音楽	・「全般的に同じでもっと変化が必要だ。音楽こそが様々なシーンに						
	変化をもたらす」						
表現・大夫の声	・「歌手の声には笑ってしまった。音符に合わせ高かったり、低かっ						
	ったりする声の調子は音というよりどちらかというと悪ふざけな						
	金切り声に似ていた」						
			そのほか・作品全体	・「このDVDは興味深い。似たものは観たことがなかった。勿論自分			
				が育った西洋文化の一部ではない」			

続いて，「演出」に関するもののうち，「舞台装置」と「音楽」に関するものが１例ずつ，合計２例あった。

さらに，「表現」に分類したが，「大夫の声」に関するものが，１例あった。

次に，「文化の違い」が理解を妨げていない場合に関連する問題は，「演技」に関するものが７例あった。報告文の引用の関係で，最後の見出し「場面の面白さ」は１文の内に２例あることとする。

７例のうち，二人が互いへの愛情を窺わせる演技に関するものは，「足に触れるシーン」だけに言及しているものが１例，それ以外の「床下の場面」に関するものが３例，「抱擁の場面」に関するもの１例，「逃亡の場面」に関するものが１例，そして“徳兵衛が天満屋を訪れるときの気持ちを表現する演技（以下「編み笠の場面」と称す）”に関するものが，１例あった。

次に，「内容」に分類したもののうち，「作品」に関するものが２例あった。また“貪欲と真実の愛に基づいている（以下「作品のテーマ」と称する）”といった，「作品のテーマ」に関するものが１例あった。

「そのほか」と称して分類したが，作品全体の感想を文化の違いに絡めて述べているものが，１例あった。

３．考察

今回，米国内におけるラテン系の人々にご協力いただいた調査結果の纏めを踏まえ，主要な調査目的となった，海外の方が日本の伝統芸能の一つである文楽をどのように受容しているのか，特に，受容を難しくしていると思われる，「言葉の違い」と「文化の違い」を中心に記述された受容の問題について，少し考えてみたい。これらの違いは，どのような問題を実際に胚胎しているのか，周知と思われることやくどいと思われる結果であっても，その問題を再度考察することから，日本の人々にとっても文楽がより身近に感じられるようなことが得られるかもしれない。

今回，３つ目の国で調査を行い，まず，肯定，否定を超えて作品そのものを味わったことを書いた報告が多くみられたことは特筆に値するように思われた。予め作品の梗概を読んでもらい，作品全体を理解したうえで，「天満屋の段」を鑑賞してもらったので，筋はわかっているとはいえ，『曽根崎心中』を悲劇であると感じ，彼らが身につけてきた自死はしないという価値観との相違を認識したうえで，直截な感想を書いた調査参加者が多かった。結末に関しては，さまざまな報告が見られた。

> 「このような絶望は途方もない出来事に見える。なぜ二人で逃げて遠くに行かないのか。なぜ姿を消さないのか。なぜ傷つけあうのか。なぜ他の解決手段がないのか」

この感想は，お初や徳兵衛がどのような階級に属し，彼らを取り巻く社会がどのようであったか，江戸時代がどのような時代であり，社会であったのかといった知識を持っていると，その知識に影響された鑑賞を行いがちであることを思い出させてくれた。筆者も，遊女であったお初にはそう多くの生きるための選択があったとは考えにくく，また，「徳兵衛の行動を観察すると，人格陶冶には問題があるのでは」という感想を持つことがあったが，それは，江戸時代の枠組みで作品を鑑賞するべきだという知識の産物であったかもしれない。作品は，研究のためだけにあるのではなく，多くのひとびとに等しく提供されたものであるべきだ。作品がひとときでも鑑賞者の心に響き，「生きる」ことや「この世に存在すること」，「明日への活力」を与えてくれれば，人間であること，社会に存在することの意味も見えてくるように，筆者は感想報告から考えさせられた。今回，調査に参加してくださった人々を取り巻く国や社会の考え方や宗教の考え方の影響もあると思われるが，心中という名の自死が恋の成就以上に，逆説的に生きることの意味を考えさせてくれる，そういった受容もあるのではないかと考えさせられた感想報告であった。他にも直截な感情が窺われ

るものがあったので，紹介しておく。

「最後はあまりにも悲劇的でとてもかわいそうだった。また徳兵衛とお初が死以外の選択を持ち二人の残りの人生を幸せにいきることができていたらと思った。私は愛を信じ幸せな結末を信じるロマンチックな人間だ」

続いて九平次に言及する報告にも，注目するものがあった。徳兵衛が九平次に冤罪をかけられたことについて，「徳兵衛はうぶだ」「残念なことに外見はあてにならないことが多い」といった深い感想内容があった。今回，調査参加者の平均年齢が59.38歳であったことも，結果に関係するのかもしれないが，単に梗概から得た知識での鑑賞が行われたというより，人生経験の深さ，豊かさが窺われる感想であった。

表５に纏めたが，これらの報告は，粗筋を読んでいたからできたという面が否めない。

「もし粗筋を送ってもらっていなかったらこの作品はあまり理解できなかっただろう」

「もしこの作品が何のテーマを取り上げているのかを知らなかったら理解できなかっただろうし，この作品を観るのは不可能だったかもしれない」

表４や文末の付録に見られるように，前回の調査結果同様に目に見える「人形」や「衣装」といったものに，報告は集中している。しかし，言葉や文化の違いがあっても，鑑賞するのは同じ人間であり，さまざまな人生を生きて個別の人生哲学を持っている人々である。次に述べるが，機会を得て文楽や『曽根崎心中』，また，作品を取り巻くものの知識を得ることは，より深く鑑賞ができ楽しみも広がることと思うが，まず，率直に自分と等身大の鑑賞をしたいと，そんな考えを抱かされる調査結果であった。実際に，調査報告者からは，字幕の要請も見られたし，作品について勉強したいと言う意見もあった。

「まったく知らないタイプの作品であり作品の起源や時代について調べる気になった。字幕付きで観たかった。もしかしたらより親しみを感じ，退屈で長いとはあまり思わなかったかもしれない。もっとも興味がうすれることはなかったが」

この感想報告者は，粗筋のことについても書いていた。筆者は，一般の人々がこのような受容を見せたことに意味があると考える。そして，近松作品が文学研究から始まったことも併せて思い起こした。深い内容を持つ作品であるゆえに，知識を持たずに鑑賞することは困難だと思われがちな古典芸能も，鑑賞観点に多様性があることで「衣装」や「人形の動き」といった技術の巧みさを楽しむことから始め，さらに作品に色をつける「演出」や「舞台」の意味を知れば，より深く楽しむことができる。今回の調査結果から，「音楽」が最も苦戦しているようには見えるが，それでも「三味線」の音色や人形の歩みに見える年齢まで音で表現できる技術を紹介する活動や，「浄瑠璃」の声も呼吸にのって様々に，誠に様々に語り分けられる巧みさなどを紹介される機会が海外でも増えていけば，一見異様に見える音声も理解されるようになると筆者は考える。音楽の受容は，一つは音に慣れることではないかと思われるので，十二平均率に慣れた耳に微分音が面白く聞こえるようになると，肯定的な受容の始まりになると思う。

このように聴覚や視覚といった感覚で受容された作品は，人間の常として受容の照準が，思考を伴う作品内容へと移っていくように思われる。そのときこそ，文楽作品の真骨頂が見えてくるのではないだろうか。かつて，坪内逍遥が「日本のシェークスピア」と評した近松作品は言うまでもなく，数々の名作が，深く心へ届く可能性は甚大ではなかろうか。調査目的で述べた，言葉の音声部分が理解されることは，言語習得の要もあって困難だが，意味部分は，粗筋や字幕で補うことが可能であり，受容者は，国を超えても同じ人間であるという共通項がここで有効となるであろう。その確信とまで述べてよいのか，少し躊躇するが，可能性を信じて確信を期待したい調査結果であった。

結

今回は，前回の調査に加えて「言葉の違い」と「文化の違い」が関連する受容の問題なども分析観点に加えて作業を行った。文楽だけではない。文化財として継承されているものたち，古くは舞楽や能，狂言，歌舞伎といった芸能が，現代を生き続けると言うことはどういうことなのか。誠に難しい問題である。不易流行を言うのではない。何がその芸能の核心であり，何を残さなければならないのか。そのためには，どうすればよいのか。現時点での筆者の考えを纏めるよい機会となった調査であった。

今後も同様の調査を続け，研究を深めていきたい。

注

1) 笠井津加佐，雄谷ソニア啓子，吉田千里「日本・ドミニカ共和国両国における日本伝統文化の受容について」，『人間社会環境研究』第24号，金沢大学大学院人間社会環境研究科，2012，pp.155－175.

2) 2002年９月27日から10月23日まで，ブラジル（ブラジリア，サンパウロ，リオデジャネイロ），メキシコ（メキシコ・シティ，グアダラハラ，グアナファト）の６都市で公演を行った。（国際交流基金，イベント報告「「文楽中南米公演」2002/9/27～10/23」，http://www.jpf.go.jp/j/culture/perform/oversea/event/others/0211.html）。

3) 管見によれば，米国内での文楽公演は，1962年に行われており，最初の海外公演でもあるようだ。『曽根崎心中』が，米国内で最初に公演されたのは1973年３月１日から４月15日までのカナダ・アメリカ公演が最初で，その後，1988年と1992年に公演が行われた。1988年９月28日から10月12日，アメリカ公演。1992年３月10日から14日，ニューヨーク公演。３月17日から29日，ハワイ・ホノルル公演。『曽根崎心中』以外の公演は，近年では，2007年９月30日から10月23日の米国中西部で行われた，サンフランシスコ・大阪市姉妹都市提携50周年記念の公演などもある。

4) 日本国内での調査は石川県内のみで行い，ドミニカ共和国での調査は，サント・ドミンゴ市内居住者のみで行った。今回米国内での調査は，ウエストバージニア州，ケンタッキー州，フロリダ州で行った。米国は，日本の約26倍，ドミニカ共和国の約200倍の広さがある。

5) 前稿，p.163，p.171.

6) 前稿，p.163，pp.166－169.

7) 文楽鑑賞教室は，国立劇場では1969年から行われており，国立文楽劇場でも1984年から行われている。そのほか，大学をはじめさまざまな場所で，技芸員の方が実際に三味線を弾きながら音の説明をしたり，人形を使って見せるなど文化を享受するための教育活動が行われている。海外でもさまざまな工夫が凝らされているように見聞するが，おそらく国によって説明のポイントが異なるのではないかと，筆者は考えている。

8) 前稿，pp.165－166.

9) 日本語文は，前稿参照，p.157.

謝辞

調査の実施に際し，著作権について，NPO法人人形浄瑠璃文楽座・峯田悦子さま，並びに，著作隣接権についてNHK大阪放送局権利情報　副部長　倉崎英揮さまから許可を頂きました。また，海外での研究調査に伴う著作権のことなど，本学法学部教授・大友信秀先生のご助言を頂きました。

心より御礼申し上げます。

付録１　KJ法による形容詞的述語部分の分類を基にした調査報告者ごとの項目内容表

	ラベル	形容詞的述語部分の報告者ごとの項目内容			
肯定的作品受容	滑稽	・面白い（滑稽）		・滑稽だった	
		S1	人形遣いの所	S1J	台詞
		S2	演出（徳兵衛がお初の着物に隠れる）		
			浄瑠璃（声の音調）		
		S4	演出（徳兵衛がお初の着物に隠れる）		
	高尚	・高尚だ		・よく表現されている	
		S3	人形の動き	S4	人形（表現・苦しみと悪事）
			人形遣い（主遣い）	S8	人形遣い（技術の達成）
		S9	人形の動き（踏分所の芸術が存在）		
		S6U	人形の着物		
		・天才的だ		・光栄だ	
		S4	人形・演技（足や身振りでの会話）	S8	ジャンルの認知（芝居と朗読そして音楽の融合）
		・巨匠だ		・途方もない仕事をした	
		S3	演奏者（三味線）	S8U	人形遣い
			人形遣い		
		S7U	大夫	・大変な才能を持っている	
			人形遣い	S4U	人形遣い
		・練習が必要だ		・厳密だ	
		S4U	人形遣いの技術	S3U	人形の動き
		・連帯感がある		・賞賛に値する	
		S5U	人形遣いと人形	S5U	人形の感情表現
		・的確だ		・能力に気付いた	
		S3U	人形の動き	S5U	人形遣い
		・よく演じられている		・豊富な経験を持つ	
		S5U	九平次の動き	S3U	人形遣い
		・慣れた		・能力が高い	
		S8U	手の表現	S2U	人形遣い
		・難しい専門家			
		S3U	人形遣い		
	印象的	・印象的だ		・目立つ	
		S3	お初の衣装	S4	徳兵衛の表情
		S5	人形（髪型、顔、衣装）		
		S7	演出（お初が転げる）		
		S1U	演出		
		S7U	人形の細部		
		S7U	人形の大きさ		
		・効果的だ		・印象に残った	
		S7	演出（お初が転げる）	S4J	演出（心中決意）
	緊張感	・緊張感があった		・切迫感があった	
		S2J	その他の音、火打ちのカチカチ	S4J	その他の音（火打石）
		S3J	内容・二人の脱出劇		
		S4J	その他の音（火打ち）	・急遽いの感じられた	
			演出（なかなか戸があかない）	S4J	人形の動き（急遽い）
			三味線（刻む早さ、早いテンポ）		
	感動的	・感動的だ		・思いの強さを感じた	
		S3	人形・演技（心中決意の足）	S3J	演出（幕の下の心中決意）
		S5	お初と徳兵衛の互いの愛情		
		S10	場面（自殺覚悟の逃亡）		
		・感動した			
		S4U	人形の動き		
		S8U	心中決意の場面		
	魅力的	・魅力的だ		・注意を引く	
		S1	人形（髪型、衣装、表現）	S9	人形遣い（主遣い）
		S4	衣装	S8	人形遣い（表情）
		S3U	衣装	S1U	ユーモア
		S6U	人形の着物		
		・美しい		・芸術品だ	
		S4	道具	S4	人形（衣装、靴）
		S10	人形（衣装、舞台演出）		演出（徳兵衛がお初の着物に隠れる）
		S3U	衣装		
		S6U	人形の着物	・目を奪われた	
				S1J	人形・リアルな動き
		・面白かった（視覚的）		・きれいだ	
		S9J	色彩による色彩対比（間の白小袖）	S7	演奏者や人形の衣装、舞台、主人公
			視覚的対比（衣装と心中）	S10	彼女達（人形のことが分析者注）
			白と黒の対比	S2U	人形
				S4U	衣装
		・複雑だ		・ユーモアがある	
		S4U	人形	S1U	会話
		・繊細だ		・優雅だ	
		S4U	人形	S6U	人形の着物
		・様々な感情に満たされていた		・洗練されている	
		S4U	作品	S7U	人形
		・手が込んでいる		・奇跡らしい	
		S2U	人形	S1U	作品
		S3U	衣装		

	共感	・共感した			・今の世にもあると思った	
		S5J	作品の人物設定・		S5J	作品の人物設定・関される人の存在
			初の同僚の無神経さ			作品の人物設定・初の同僚の無神経さ
			作品の人物設定・			
			悪事を確認する九平次		・よく分かった	
		S6J	台詞(九平次の台詞に対する、		S5J	作品の舞曲設定(周到に関された)
			お初の怒り)			作品の舞曲設定(やはり悔しい)
			その他の音(火打石)			作品の舞曲設定(お初の悔しさ)
			流出(徳兵衛を弁護できない			作品の人物設定・初の同僚の無神経さ
			もどかしさ)			
		・分かりやすくした				
		S2U	演技			
	好き	・気に入る			・すきだ	
		S2	弦楽器		S2	弦楽器
					S4	文化(人形、美術表現)
		・好感を持った			S7	衣装(演奏者、人形)
		S6U	床下の場面			人形・演技(手で感情表現)
						演出(帽子を取るリアルな場面)
					S8	浄瑠璃(うっとり)
						作品の内容(徳兵衛の話をお初が信じ許す場面)
					S10	演出・演技(徳兵衛とお初の悲しい状況の表現)
	面白い	・面白い(「面白かった」を含む)			・興味深い	
		S1	人形(大きい、操作)		S1	人形(大きい、操作)
		S3	人形の演技(お初がころぶ場面)			
			同(最後二人が抱き合う場面、悲劇的決心の受容)		S2	人形遣い(感覚でリアルな動きの連続)
		S8	人形・演技(徳兵衛は紳士的にお初優先)			作品のテーマ
			人形・演技、演出(徳兵衛がお初の着物に隠れる)		S9	人形・演技(徳兵衛は紳士的にお初優先)
		S10	全体の感想		S10	全体の感想
			人形遣い			人形遣い
			人形・演技(表現・愛情や優な性格)			人形・演技(表現・愛情や優な性格)
		S8U	逃亡の場面		S1U	演出
		S5U	お初の着物で徳兵衛を隠す		S5U	DVD(作品)
		S6U	団扇で明りを消す場面		S6U	『曽根崎心中』
					S8U	作品のテーマ
		・よい			・楽しんだ	
		S1	舞台美術		S4	演出(脱走の場面)
			照明			人形・演技、人形遣い
		S7	演出(徳兵衛がお初の着物に隠れる)			場面(登人たちの別れの踊り)
		S2U	演技		S5U	人形遣い
		S7U	大筋			
		S7U	ショー			
		・好奇心を持つ			・興味があった	
		S2	三味線の撥		S5J	演出(徳兵衛への悪口を耐える初・徳兵衛)
						演出(徳兵衛を弁護できないもどかしさ)
		・勉強になった			・興味が持続した	
		S4			S6U	
	予備知識	・意識して聴いた				
		S3J	町人文化形成に関する論文			
			心中意識、見伊達とか意識して聴いた			
否定的作品受容	違和感	・違和感を持つ(不快感)			・おかしい(変だ、「おかしかった」を含む)	
		S1	浄瑠璃・声		S2	女性に男の声を使う
			人形遣い		S6U	床下の場面
		S2	浄瑠璃(声の音調)		・目立つ	
			女性の声がない		S2U	人形遣い
		S7	人形遣いの存在			
		・奇妙だ			・気が散る	
		S4	音楽		S5	人形遣いの存在
		S7	音楽		S2U	人形遣い
		・逃方もないこと			・馬ふざけな金切り声に似ていた	
		S4U	作品の中に見られる絶望		S3U	大夫の声
		・笑ってしまった			・対決のように見える	
		S3U	大夫の声		S2U	二人の抱擁
		・女性の方が良い				
		S2U	お初の声			
	退屈	・退屈だ			・単調だ	
		S1	音楽(繰り返しが多い、単調)		S5	音楽
		S2	演出(ゆっくりすぎる)		S6U	作品
		S5	作品全体		S6U	音楽
			音楽(ゆっくり)			
			人形遣い(目立ちすぎ)		・視覚的に刺激がない	
		S9	作品全体(最初見始め)		S4J	浄瑠璃(冒頭の部分)
		S1U	ゆっくりしたBGMの場面			
		S5U	人形遣い		・眠てしまう	
		S5U	三味線		S3U	冒頭部分
		S6U	九平次の幽霊			
		S6U	字幕付きなら退屈しない			
	面白くない	・あまり好きではない			・よくない	
		S1	作品全体		S1	物語の理解のために話の梗概が必要なこと
		S2	三味線の音響			
		S5	作品全体		・つまらない	
		S7	人形遣いの存在		S5	音楽
		・感動が薄れてしまう			・堅苦しい	
		S7	人形遣いの存在		S2U	冒頭部分
		・面白みがない			・似ていた	

		S6U	音楽			S7U	大夫の声調		
	変化がない	・ゆっくりとした				・長い			
		S1U	音楽(リズム)			S2U	冒頭部分		
		S2U	作中全て			S6U	作品		
						S6U	シーン		
						S6U	九平次の自慢		
		・少ない				・同じものだ			
		S2U	演技			S7U	舞台装置		
		S2U	お初の台詞			S7U	音楽		
		・変化が必要だ				・遅い			
		S7U	舞台装置			S7U	作品全体		
		S7U	音楽						
	難しい	・よく分からなかった(「わからない」を含む				・わからない			
		S3J	浄瑠璃(冒頭の部分)			S4	浄瑠璃・声		
		S4J	映像を見ていると、最初の劇が始まるまで			S7	作品のリズムと会話部分		
		S5J	浄瑠璃(冒頭部分)						
			演出(徳兵衛を櫃に入れてかくまう)			・戸惑う			
			演出(心中決意)			S4	浄瑠璃(声の変化)		
			その他の音(火打石)			S5U	語彙の初め		
			演出(心中決意と実行の速さ)						
		S6J	演出(線の下のイメージの違い・時代劇の影響)			・難しい			
		S2U	呈茶の意味			S7	作品の内容理解		
		S6U	次のシーンの予測			S2U	作中出来事の理解		
		S6U	ナレーション(浄瑠璃)			S7U	発話者の同定		
		・簡単ではない				・注意が必要だった			
		S2U	意味			S7U	舞台上の出来事の理解		
		・理解できない(「理解できなかった」を含む)				・理解が困難だ			
		S7	音楽			S7U	作中の出来事		
		S6U	団扇で明りを消す場面						
その他	悲劇	・悲しそうだ				・悲劇的だ			
		S2U	冒頭部分			S2U	天満屋の段		
						S3U	作品		
		・物悲しくする				S3U	最後		
		S2U	大夫の声						
		・悲しい				・暗い			
		S2U	全て			S2U	舞台		
		S3U	作品						
		S3U	最後			・気の毒だ			
						S7U	主人公の死		
	未知	・西洋文化圏のものでない				・経験がなかった			
		S5U	DVD(作品)			S6U	作品		
		・観たことがなかった							
		S5U	DVD(作品)						
	字幕	・その理由や意味もわからなかっただろう				・知らないと鑑賞は不可能だ			
		S6U	粗筋の有無			S6U	作品のテーマを知ること		
		・字幕付きで観たかった							
		S6U							
	学習意欲	・作品の起源や時代を調べたい							
		S6U							
	作品分析	・一番感情が反映される				・この芸術の複雑さを示す			
		S4U	心中決意の場面			S5U	大夫の声		
						S5U	三味線		
		・操作が難しそうだ				少ない			
		S6U	人形遣い			S3U	動き		

注1)形容詞的述語部分に関する表1ならびに表3では、報告者の文章ごとにサンプル数をカウントした。
そのため、項目内容の数と一致しない部分が若干出たことを断る。
注2)S1からS10は、ドミニカ共和国での報告者を意味し、S1JからS2Jは、日本国内での報告者を意味する。
S1UからS8Uまでは米国名での報告者を意味する。
注3)本文中に掲載したKJ法による分類表と、本表は形容詞的述語部分の提示の順番が異なっているが、
報告数の関係によるものである。